

(東京交通新聞抜粋)

福祉車両をLPG化

東和モーターズ 国際福祉機器展で展示



福祉車両の改造・販売を行う東和モーターズ販売福祉車両事業部は、社内レイアウトが自由に遠出や小旅行にも適したハイエースの福祉車両「ハイエース送快UD-W」のLPGガスとガソリンのバイフューエル車の発売を開始した。このほど東京・ビッグサイトで開かれた「国際福祉機器展」でお披露目。28日に文京区・東洋大学白山キャンパスで開かれた「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2018」ではポスター発表を行った。

福祉車両は燃費が悪いことが欠点だが、燃料代が安いLPG化によってランニングコストを低減でき、使いやすくなる」としている。LPGガスのボンベ(72・5ℓ)は車体下に取り付けている。スイッチ一つで燃料を切り替えられる。同社の試算ではガソリンより燃料経費が40%削減でき、バイフューエルなので予備燃料のガソリンも使えば1充填あたりの航続距離は約2倍に伸び長距離の移動でも安心だ。CO₂、NOXも削減できる。

同社は「車体の大きな福祉車両の車内フロア架装

は埼玉県加須市のミクニライフ&オートの「マルチユースカー」という装置。フロア内に規格レールが走っており、着脱式のシートや車いす固定装置を用途に合わせて自由にレイアウトする仕組み。シートは3点式シートベルト付きでフロアともに高い安全基準を満たしている。

1台で10人乗りタクシー、福祉タクシー、ストレッチャー送迎、車いすと一般混乗のレジャー車などに早変わりする。フルフラットにすれば自転車などの運搬用としても活用できる。